

留学報告書 ～人生で一番充実した9か月間～

コー大学
外国語学部生（長期）

私は、2021年8月から2022年5月までアメリカのコー大学に長期留学をしました。留学生活も終わりに差し掛かった頃、友達に「この留学を一言で表すならどの単語を選ぶ？」と聞かれました。沢山考えましたが、その一言は見つかりませんでした。この素晴らしい経験と、留学中に会った大好きな人達を一言で表すことはできなかったからです。アメリカで過ごした9か月は、それほど充実した時間で、私の人生で最も大切な経験の一つとなりました。詳細は月例報告書に綴ったので、ここでは主に私が現地で感じたことや学んだことについて書こうと思います。

私は、小学6年生で英語を好きになって以来、留学を目標に英語の勉強を続けてきました。名古屋学院大学に入学後に留学に内定し、それまで飛行機に乗ったことも、海外に行ったこともなかった私は、留学という夢がもうすぐ叶うことにワクワクした気持ちでいっぱいでした。しかし、いよいよ留学まであと少しという時、コロナウイルスの影響で留学が延期になりました。大学在学中に留学ができるかも分からない日々が続き、ひどく落ち込んだことを覚えています。しかし、機会に恵まれ、出発日の1か月前に留学に行けることが決定しました。その時私は大学3年生で、周りは就職活動の話も始めている時期でした。テレビでは、コロナウイルスで加速したアジア人ヘイトによりアジア人が暴行を受けている様子を見ることもあり、それまで留学が一番したいと思っていたはずが、その気持ちに迷いが生まれました。リスクを背負ってまで本当に今留学がしたいのか、就職活動に後れを取っても後悔しないのか、様々な不安が頭を巡りました。しかし、周りの方々に相談し、これまで留学をするために頑張ってきたのに、このチャンスを逃すのはもったいないと考え、留学することを決めました。現在留学から帰ってきて、その時留学に行くことと決めた自分に心から感謝したいです。

留学中に学んだことは主に2つあります。

1つ目は、完璧な英語を話せなくてもいいということです。これは、私のルームメイトや友達から教わりました。私は、今まで英語を完璧に話せるようになることを目標に勉強してきました。ネイティブの英語の発音に近づけようと発音練習をしたり、文法間違いをしないように気を付けて話していました。しかし、アメリカで英語を母国語とする人や各国からの留学生と関わる中で、その考えは変わりました。アメリカで生活をして感じたことは、英語と一言で言っても、様々なアクセントや話し方があるということ、そして、それはネガティブなことではないということです。私のルームメイトだった Diana は、メキシコ人でした。高校生の頃にアメリカに移住して、全く英語が話せない状態から英語を習得したそうです。彼女は、大学の授業に難なくついていけるほどの英語力がありますが、スピーキングに関してはスペイン語のアクセントが強く残っていました。彼女自身も昔は自分のアクセントを恥ずかしく思っていた時期があったそうですが、ある時から考え方が変わったそうです。彼女は、ネイティブの学生の前でプレゼンテーションを行うことに不安を感じていた私に、「アクセントがあるということは、2つの言語が話せる証拠だから自信を持つべき。あなたのプレゼンテーションを聞くほとんどの学生は英語しか話せない。だから自分の英語力やアクセントを恥ずかしく思わず、誇りを持つべきだよ」と伝えてくれました。今まで考えたことのない視点からのアドバイスに、はっとしたと同時に、その通りだと納得しました。コー大学には、世界各国からの留学生がいます。9か月の間に、韓国、インド、ベトナム、カンボジア、スペイン、パキスタン、アイルランドなど、10以上の国から来た留学生と仲

良くなりました。私は、留学生と話している時に彼らのアクセントや文法間違いなんて気にしないのに、自分の英語にはどうしてそんなに厳しいのだろうと、その時思いました。また、私のホストマザーの「英語のミスを気にして黙っているより、気にせず沢山話してくれる方が嬉しい。私はあなたの英語力じゃなくて、あなたの事が知りたいの」という言葉も印象に残っています。授業中、アメリカで生まれ育った学生が授業中に architecture という私が知っている単語の意味を知らず質問している場面にも遭遇しました。ネイティブにも知らない英単語があり、いつも完璧に話しているわけではないんだと気付いて以来、ネイティブのように話そうとしたり、文法の間違いを気にすることがなくなりました。留学中、完璧に英語を話せなくても、そのことを指摘する人は私が出会った人の中には一人もいませんでした。もちろん、通訳など仕事を目指しているなら完璧な英語を話すことは大切かもしれませんが、しかし、日本にいたらただ英語で会話をしたいだけなのに、上手く英語を話せなかったり、文法の間違いをすることを恐れて英語を話すことをためらってしまう人と多く出会います。ですが、そのことを気にしすぎる必要はないということを、これから英語を学んでいる人や留学を目指している後輩に伝えていきたいです。



2つ目は、挑戦することの大切さです。私は、慎重な性格で、何事も始める前に色々考えてしまう癖がありました。そのため、何かやってみたいと思っても、挑戦できずに後悔してしまうことが多くありました。しかし、今回の留学では、挑戦せずに日本に帰り後悔するのだけは避けたいと、勇気を出して多くのことに挑戦してみました。9か月という限られた時間で、やりたいと思ったほとんどのことに挑戦しました。留学という限られた時間だからこそ、いつかやればいいと思うのではなく、その時に行動することができたのだと思います。

挑戦したことは、今まで食べたことのない料理を食べたこと、人生で初めてジェットコースターに乗ったことなどがあります。

大きな挑戦の1つは、Catherine McAuley Center という移民や難民の支援をしている施設でのボランティアに参加したことがあげられます。そのボランティアは、英語が苦手な子供たちの宿題の手伝いをするという内容でした。有志で参加できるものだったのですが、初めは参加を迷っていました。英語が完璧に話せない私に英語の宿題の手伝いができるのか自信がなかったからです。しかし、先生が「理紗子なら大丈夫だと思うよ、参加してみたら？」と仰ってください、こんな機会はないだろうと思い、参加することに決めました。実際に参加してみると、子供たちは私が想像していた以上にフレンドリーで、教える宿題の難易度も高くなく、すぐに馴染むことができました。英語が苦手な子供達だったので、コミュニケーションを取る上ではジェスチャーを多く使うことや、簡単な言葉で話すことを心掛けました。当初は、自分の英語力を理由に参加を迷っていましたが、何度もボランティアに参加するうちに、英語を学んでいる立場の私だからこそ彼らの立場に立って寄り添い、分かりやすく教えることができるんだと気付きました。ルワンダやコンゴ民主共和国などから来た子供達の母国の話を聞いたり、彼らの母国語を教えてもらったりと、彼らから学ぶこ

とも多くありました。このボランティアには、参加して良かったと心から思います。

他には、私が所属していたインターナショナルクラブの Culture Show というイベントに参加しました。Culture Show は、10月に開催された、学生が特技や歌、ダンス、母国の文化などを披露するイベントです。参加したい人が参加することができるイベントということで、人前での発表が苦手な私は、初めはイベントへの参加を迷っていました。しかし、友人からの「やってみないと後悔するよ!」という言葉に背中を押され、参加することにしました。韓国人はKpopのダンスパフォーマンス、ベトナム人は歌を披露する中、私は日本人学生と共に二人羽織を披露しました。羽織が無かったため、大きなごみ袋を使って羽織を手作りしました。パフォーマンス中にはひげダンスのテーマ曲を流し、ペットボトルに入った水と辛ラーメンを用意し、本番を迎えました。私の不安をよそに、パフォーマンスは大成功に終わりました。見に来てくれた観客は大笑いしてくれて、友達からも「一番面白かった!」との言葉をもらいました。自分の国の文化を披露し、多くの人に面白いと言ってもらえたことはとても嬉しかったです。緊張しましたが、実際にステージに立って話しながら観客の笑っている姿を見ていると、自分も楽しんでパフォーマンスをすることができました。

何事も始める前は不安になり怖気づいてしまうけど、不安に思っていることのほとんどは起きないことに気付きました。また、留学中に勇気を出して挑戦したことで後悔したことは一度もありません。恥ずかしい思いや失敗をしたとしても、挑戦したということ自体が自身の成長に繋がったと感じています。現在は、不安を感じたとしてもとりあえずやってみようとするようになり、以前に比べて積極的に行動できるようになりました。



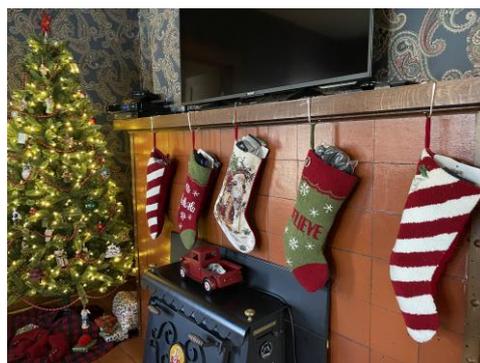
学んだこと以外では、留学生活を通して自分の世界がぐっと広がったと感じます。先ほども述べたように、コー大学には世界各国からの留学生がいます。彼らと過ごす中でお互いの国の話をすることも多く、日本とは全く異なる文化を学ぶことができました。今まで英語圏の国にばかり興味を持っていた私ですが、彼らとの関わりを通して英語圏以外の国についてより興味を持つようになりました。特に、ルームメイトの Diana やコー大学で履修していたスペイン語のクラスの影響で、スペイン語圏の国についてもっと知りたい、スペイン語をもっと勉強したいと思うようになりました。もともとスペイン語は名古屋学院大学で第二言語として履修していましたが、日本では全く使うことのない言語だったため、勉強意欲があまり上がりませんでした。しかし、アメリカに来てスペイン語を話す人と出会い、学んだことを実際に使うことができる環境に身を置いたことで、より力を入れてスペイン語を学びたいと思いました。また、Diana の家族が本場のメキシコの料理でもてなしてくれたり、部屋で一緒に過ごしている時にメキシコの人がどれだけフレンドリーなのかを教えてくれたり、そのような普段の会話からメキシコについて学ぶことができました。今までどこにあるかも知らなかったメキシコが、今では私の一番行きたい国になりました。他にも、韓国、インド、パキスタンなど、留学先で出会った友人の母国にはいつか必ず訪れてみたいです。留学前は飛行機に乗ることさえ大ごとだと感じていた私の世界

は、留学生活を通して大きく広がりました。



また、留学中は多くの人の温かさに触れました。助けてくれたクラスメイト、いつも気に掛けてくれたホストファミリー、色々な場所に連れて行ってくれた友人など、「してもらったこと」を数えるときりがありません。中でも印象的なのは、クリスマスに友人の家にホームステイをした時のことです。新入生オリエンテーションで仲良くなった友人の Claire に、「冬休みの予定が決まっていななら、私の家に来る？」と誘ってもらい、冬休みに彼女の家で過ごすことになりました。Claire、彼女の双子の妹 Tessa、両親、2匹の猫が住むカンザス州ウィチタにある一軒家に、1週間お世話になりました。お邪魔した週はちょうどクリスマスの週で、本場のクリスマスを体験しました。私が食べたいものを作ってくれたり、行きたい場所に連れて行ってってくれたり、私が楽しめるようにもてなしてくれました。クリスマス当日には、靴下いっぱいに入ったプレゼントだけでなく、家族4人全員から1つずつプレゼントを頂きました。お邪魔させていただいているのは私なのに、そんなに色々してもらおうのは申し訳ないと伝えると、両親は「この家にいる間は、あなたは私たちの娘同然なんだから、遠慮しないで。あなたが来てくれて嬉しいのは私達なんだよ」と言ってくださいました。親戚の集まりに呼んでいただいた時も、みんなが「来てくれてありがとう」と言っていただき、家族と離れて暮らしていた私にとって、第二の家族を見つけたようなそんな温かさを感じました。たった1週間の滞在だったにも関わらず、別れの時には寂しさから涙が止まりませんでした。





また、Diana との出会いも特別です。留学当初は、Diana ではなく、3 人のルームメイトと 4 人部屋で暮らしていました。しかし、途中からルームメイトが友人を部屋に連れてくるようになり、そのことが嫌だと伝えられず、自分の部屋にいるのが居心地が悪くなってしまいました。そんな時、Diana もルームメイトとの関係に悩んでいると知り、自ら一緒に暮らさないかと声をかけてみました。すると、ぜひ一緒に住みたいと言ってきて、11 月からお互いの新しいルームメイトになりました。Diana とは、International Studies の授業でクラスメイトとして出会い、私が挨拶をしたことがきっかけで仲良くなりました。それから、一緒にお昼ご飯を食べようと彼女が誘ってくれるようになり、授業で近くに座ったり、授業後に出掛けたりするようになりました。一緒に住むようになってからは、毎日約 24 時間ずっと一緒に過ごしていましたが、一緒にいることがしんどくなったり、いざこざが起こったりすることは一度もありませんでした。むしろ、お互いの性格や考え方が似ていることに気付き、長い時間を過ごすにつれてお互いにとって親友以上の存在になっていきました。このように何でも素直に話すことができ、私を肯定してくれて、何も心配せず自分をさらけだせる存在は、彼女が初めてでした。人種を超えて、このように深く繋がれる友人ができるとは、留学前には想像もしていませんでした。留学中は、キャンパスにある寮に住むため、日本にいる時とは比べ物にならないほど長い時間を友人達と過ごします。ルームメイトでなくても、授業を受け、ご飯を食べ、夜寝るまで、ほとんどの時間を一緒に過ごします。簡単に離れられないからこそ、人間関係で悩むこともありましたが、しかし、このような環境で過ごしたからこそ、9 か月という短い時間でもここまで深く特別な関係を築くことができたのだと思います。留学中は、多くの人と出会い、沢山助けられ、支えられていました。留学をしたからこそ得たこの繋がりは、私にとって一番の宝物であり、一生大切にしていきたいものです。



留学を通して学んだこと、得たものは数えられないほどあります。英語力の向上だけではなく、人としても一回り成長できたと感じます。留学は小学生の頃からの夢でしたが、その頃夢見ていた以上の経験をすることができました。このような経験をさせてくれた家族に心から感謝をするとともに、この経験を通して学んだことをこれからの人生に活かしていきたいです。